

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

| | |
|------------------------------|---|
| 名称：湘南台南保育園 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：千田 香織 | 定員（利用人数）：72名 (利用人数：74名) |
| 所在地：〒252-0804 藤沢市湘南台2-31-11 | |
| TEL：0466-53-8014 | ホームページ： http://www.tomoni.or.jp |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：2015年4月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会 | |
| 職員数 | 常勤職員：11名 非常勤職員：17名 |
| 専門職員 | 園長：1名 主任：1名 |
| | 保育士：19名 栄養士：1名 |
| | 調理員：4名 事務員：1名 |
| | 用務員：1名 |
| 施設・設備の概要 | 保育室：6室 トイレ：4か所 |
| | 沐浴室：1室 調乳室：1室 |
| | 調理室：1室 事務室：1室 |
| | 相談室：1室 職員休憩室：2か所 |
| | 一時保育室：1室 園庭：1か所 |
| | テラス：2か所 デン：1か所 |

③理念・基本方針

社会福祉法人県央福祉会保育園の基本理念

1. 全ての保育を必要とする子どもの環境整備に努めます。
2. 子どもの発達や成長に沿った保育や支援を行います。
3. 時代の変化にともなうニーズに即した保育と子育て支援をプロデュースします。

湘南台南保育園の理念

子どもの力を信じて見守ることを重視し、自ら工夫することのできる「頭・体・心」を育みます。

保育の方針

1. 子ども一人ひとりの自己肯定感を育み続けます。
2. 安全で安心できる環境を常に考えます。
3. 地域交流を大切にします。
4. 子どもが主体的に取り組める活動を取り入れ、心身ともにバランスのとれた発達を促す保育をします。
5. 社会の変化にあった研修会や学習会等を設定し、専門性の高い保育を目指します。
6. インクルーシブ保育を行います。
7. 保護者の状況を理解した保育を行います。

④施設・事業所の特徴的な取組

・最寄りの駅から徒歩10分程度の閑静な住宅街の中にあります。近所の方や隣のJAにも理解して頂き、温かい見守りの中、子どもたちは伸び伸びと過ごしています。すぐ近くに小田急線や藤沢市の資材置き場があり、保育室や散歩中に電車や工事車両を見ることができます。

・園庭では、走り回ったり、遊具で遊んだりして十分に身体を動かし、乳児も時間帯をずらしてテラスで日向ぼっこをしたり、砂場で遊んだりしてゆったりと過ごしています。また、周辺には公園も多く、散歩車も使用して、年齢に応じ、戸外で積極的に過ごしています。幼児は交通ルールや近所の方への挨拶など社会マナーも学んでいます。雨天時は、トンネル、跳び箱や鉄棒などのサーキットやエアトランポリンなども使用して過ごしています。

・朝夕の自由遊びでは、異年齢で遊ぶことが多く、大きい子が小さい子の面倒をみる姿がよく見られます。また、好きな遊びや玩具を自ら選んで楽しめるように配慮しています。一斉保育では、各クラスが年齢や時期に合わせて様々な経験(歌、制作、ゲーム、リトミック、体操、食育等)ができるように工夫しています。

・子ども一人ひとりの発達の状況を、児童票を用いて確認しています。今、目の前にいる子どもにとって、どのような声掛けや環境が良いのか、職員間で話し合いをしています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 令和5年5月23日(契約日) ~ 令和6年3月18日(評価結果確定日) |
| 受審回数(前回の受審時期) | 1回(2019年度) |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの自主性、主体性を育てる保育を実践しています

幼児クラスの子ども達は、友だち同士で話したり協力しながら行事に取り組んでいます。段ボールを使っての制作、ファッションショーごっこ、お化け屋敷ごっこ等、子ども達が自ら工夫して共同で作る活動を多く行っています。職員は子ども達の主体性を大切にして、友だちと工夫して遊ぶ楽しさを味わえるように関わっています。保育方針『子どもの力を信じて見守ることを重視し、自ら工夫する事のできる「頭・体・心」を育みます』に添った活動を積極的に行っています。

2)楽しめる遊びの空間づくりを工夫しています

保育室は玩具も収納できる移動可能な低い棚を使って、その都度遊びに合わせたコーナーを作り、落ち着いて遊びに集中できるよう空間づくりを工夫しています。園庭は広いベランダがあり、乳児クラスにとって安全な遊び場となっています。園庭にもそのまま出ることができます。園庭はアスレチックを含め遊具が多くあり、楽しく遊べる空間となっています。住宅地の中にある保育園ですが、地域にも理解が得られており、園の環境、楽しめる遊びの空間作りを行っています。

3)職員間の情報共有のツールを活用し、連携を深めています

子ども一人ひとりの状況については児童票を用いて子どもの心の育ちにとってどのような声かけや環境が良いか職員間で話し合い、より良い保育の実現をめざして取り組んでいます。また各クラスには家庭からの情報、家庭への連絡事項を記載して、昼礼で子どものその日の体調や怪我などを職員間で情報共有するためのクラスノート、各クラスと給食室との交換日誌などがあり、職員同士で声を掛け合ったり、相談し合ったりして連携を深めています。

4)園内及び外部研修計画の策定が期待されます

保育に関わるニーズの複雑化や支援の困難さなどにより、専門性が一層求められることから、職員一人ひとりが習得すべき内容を確認できる人材育成計画を策定することが期待されます。また知識、技術水準、専門資格が計画的に取得できるように内部及び外部の研修計画を策定し、研修に積極的に参加できるよう、職員の教育・研修の充実を図ることが期待されます。

5) マニュアル類のさらなる整備が期待されます

保育園が作成すべき基本となるマニュアル類の不足が見られます。具体的には実習生受け入れマニュアル、ボランティア受け入れマニュアル、標準的な実施方法に関するマニュアルなどです。マニュアルを作成することで業務における行動や判断基準が明確化され、スムーズに仕事内容を習得できるメリットがあります。職員が一定のサービスを提供できるようにそれぞれのマニュアルを整備し、職員に周知することが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審し、評価項目を一つ一つ確認していくことで、保育園とは、保育とはという原点に立ち戻って振り返ることができました。今まで取り組んできた内容についても、良い点・改善を必要とする点・新たに学んでいかなければならない点など多くのことに気づかされました。子ども一人ひとりの発達に合わせた環境づくりの研修、マニュアルの整備・周知についても引き続き取り組んでいきたいと思えます。

保護者の方々からも貴重なご意見を頂きました。

今後は受審結果を基に、職員間で話し合いを重ね、保護者や子どもたちにとって安心して伸び伸びと楽しく過ごせる保育園になるよう努力していきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり